

南部地区バスケットボール戦評記入用紙

大会 (新人・春季・インターハイ・夏季)  
 試合 (決勝・準決勝・決勝リーグ・5-7位決定戦・代表決定戦・その他)  
 日時 6月17日 金曜日 第2試合 時刻 12:00  
 記入者名 津留崎 治子

A チーム	得点		得点	B チーム
<u>山村学園</u> 高校	66	$\left( \begin{array}{cc} 21 & - & 12 \\ 14 & - & 11 \\ 16 & - & 20 \\ 15 & - & 17 \end{array} \right)$	60	<u>浦和西</u> 高校

戦評

第1P 両チームマンツーマンで始まる。出だしペースを掴んだのは山村学園。#4 #15のドライブに#5 #7が合わせ、オフェンスを組み立てていく。一方、浦和西は決勝リーグ1戦目で緊張しているのか、トラベリングやパスミスなどでシュートチャンスを作れていない。残り7分9-0で浦和西はタイムアウトを取る。浦和西はディフェンスで相手のリズムを崩しにかかる。#14を起点に#4のゴール下、#7の3Pで息を吹き返す。対する山村学園も積極的にセンターライン辺りでトラップを仕掛け、パスカットから連続で得点する。流れを断つために2回目のタイムアウトを浦和西が使う。山村学園は勢いに乗って突き放したいところだったが、ゴール下のシュートが決めきれず、21-12で第1P終了する。

第2P お互い苦しい状況でのシュートが多くなるが、山村学園の#4 #5の1対1の強さが光り、ドライブインやリバウンドシュートを決めていく。さらに、#4から#7へのアシストからファウルをもらいながらゴール下をきっちり決め、18点差とした。これ以上離されるとまずい浦和西は#7 #14の粘り強いディフェンスをきっかけに流れを取り戻そうとする。#7のゴール下や#10の思い切りの良いカットインで山村学園の#6が3つ目のファウルで交代。流れが浦和西に傾きかけたところだが前半終了。12点リードで山村学園。

第3P 後半開始、山村学園は下級生ながら勢いのある#12 #15が1対1でレイアップまで持っていくが、リングに嫌われてしまう。その後は一進一退の攻防が続く。山村学園は身体能力の高い#5オフェンスリバウンドや速攻、#7へのアシストで着実に得点を決める。浦和西は#6のリバウンドの頑張りや#14から#6へのアシストからバスケットカウントをもらい、何とかつなぎ、離されないように粘る。#7 #9の3Pもあり、点差を7点に縮めて最後のピリオドにつなぐ。

第4P 開始早々、浦和西#11の3Pが決まり浦和西が活気づく。山村学園はファウルでベンチに下がっていた#6を戻すが、流れは変わらない。浦和西#6がシュートを決め、得点差を3点に詰められたところでタイムアウトを取る。山村学園はオールコートマンツーマンに変え、激しいプレッシャーをかけるが、何とか浦和西もボールを運ぶ。目まぐるしい展開の中で、山村学園#15がボールを奪い、速攻という場面で浦和西#7が接触し、アンスポーツマンライクファウルを取られてしまう。フリースローを1本収めた後、山村学園#5の連続2本ジャンプシュート、#4の3Pで残り3分10点差と離し、山村学園は落ち着きを取り戻す。とにかく追いつきたい浦和西は積極的に攻めていく。3Pはリングに嫌われるが、#6 #7 #11がゴール下での粘りを見せる。残り20秒66-57、少しでも点差を縮めたい浦和西は#7が3Pを決め、試合終了した。結果は66-60山村学園に1勝。得失点差がかかわるリーグ戦、2日目の闘いはどう展開していくだろうか。